

「小さな拠点」の形成に向けた新しい「よろずや」づくり

商業機能の果たす役割

地域住民の毎日の買い物を支える店舗が中山間地域にあることにより、地域住民が店舗に集い、店舗が地域の拠点となることで、人や情報の交流が生まれて地域の活力につながるとともに、地域住民の集積をターゲットとして新たなサービスが生まれ、拠点の複合機能化（機能の集積）や地域経済の活性化につながる。

中山間地域の抱える課題

- ・ 小売業と同時に卸売業も衰退していることが想定され、店舗の品揃えや価格の点で地域住民の毎日の買い物を支えることが可能な魅力的な店舗づくりが困難
- ・ 商圈が小規模なため従来の手法では店舗経営が困難であり、地域住民が店舗を支える、損益分岐点を低下させる、他の収入源を確保するなどといった運営の工夫が必要

新しい「よろずや」づくり

- 上記課題を乗り越え、中山間地域における拠点として商業機能を確保し、人や資金の地域外への流出を抑制する新しい「よろずや」づくりに自治体が政策的に関わっていくことが重要。

新しい「よろずや」

- 中山間地域にも出店可能なボランタリーチェーン等の民間事業者の全国的な物流網等も活用して低価格で売れ筋商品を調達し、地域住民の毎日の買い物を支える店舗づくりを実現
- 地域が主体となったコミュニティビジネスの形で地域住民が支える持続可能な店舗づくりを実現
- 廃校や旧役場庁舎等を活用した新しい「よろずや」が地域住民の集う拠点となり、新たなサービスが生まれるなど拠点の複合機能化が進むとともに、周辺地域とのネットワークが構築されることで、新しい「よろずや」は小さな拠点へとつながる。

「小さな拠点」の形成に向けた新しい「よろずや」づくり

新しい「よろずや」

- 中山間地域にも出店可能なボランタリーチェーン等の民間事業者の全国的な物流網等も活用して低価格で売れ筋商品を調達し、地域住民の毎日の買い物を支える店舗づくりを実現
- 地域が主体となったコミュニティビジネスの形で地域住民が支える店舗づくりを実現

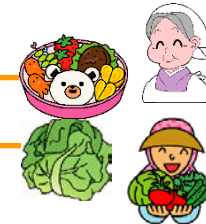
◎民間事業者の全国的な物流網等も活用して売れ筋商品を調達



運営の工夫

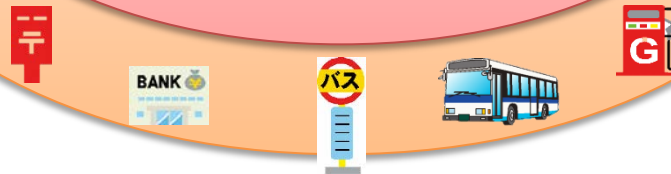
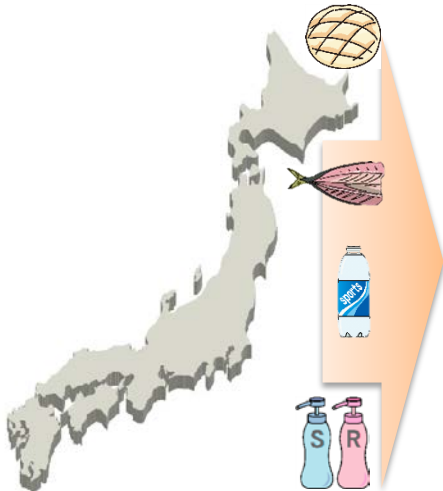


廃校や旧役場庁舎等まちなかの既存ストックを活用



地場産品や特産品等の販売による店舗の魅力向上・外部経済の取込み

◎事業主体、主要な顧客として地域住民が支える



地域住民の集う拠点として複合機能化が進むとともに、周辺地域とのネットワークの構築により小さな拠点へ